

子どもを持つことに対する未婚者の意識について

The Feelings of the Single Person about Having a Child

コース 社会学

学生氏名 有岡 亮太

指導教員 小林 和美

キーワード : 子ども 近代家族的家族観 ワーク・ライフ・バランス
(having a child) (the views on 'modern family') (work-life balance)

本論文では、未婚者にとっての「子どもの価値」を問い直すため、未婚の大学生男女の「子どもを持ちたいという気持ち」に影響を及ぼす要因を、おもに調査票調査を通して明らかにした。

先行研究では、既婚女性やすでに子どものいる人を対象にしたものが多い。未婚の男女にとっての「子どもを持ちたいという気持ち」について研究することには、「子どもの価値」を未婚者の視点からとらえ直すという意義がある。この論文の課題は、未婚の男女の「子どもを持ちたいという気持ち」の実態や、その「子どもを持ちたいという気持ち」に影響を与えている要因を明らかにすることである。

これらの課題を解き明かすため、調査票調査とインタビュー調査を行った。まず、未婚の大学生の子どもを持つことに対する意識を、調査票調査によって明らかにした。未婚者の約 8 割は子どもを持ちたいと考えており、その気持ちの強さと、欲しい子どもの数が比例する。また彼らは子どもを持つことよりも、親になるということに対して、責任を強く感じているようだ。

つぎに、「子どもを持ちたいという気持ち」には、以下に述べる A~D の 4 つの要因が影響を与えていると考え、それぞれの要因ごとに立てた仮説を検証するという方法で、それらの相関関係を調べた。「A 子どもの世話経験」では、アルバイトなどでの子ども世話経験の豊富さが、「子どもを持ちたいという気持ち」を強くするという結果が出た。年下きょうだいの世話経験とは関連はみられなかった。この結果には、回答者と世話をする子どもとの年齢差が影響したと考えられる。「B 定位家族のあり方への評価」では、父親や母親への高い評価が、「子どもを持ちたいという気持ち」を強くすることがわかった。また、両親の夫婦関係への評価、家庭の経済的な余裕への評価が低い人の中には、家庭内で苦勞した過去から、「自分は親とは違う生活をする」と考えている人がいる可能性が確認できた。「C 近代家族的家族観」が強い人ほど、「子どもを持ちたいという気持ち」は強い。また、結婚と生殖は強固に結びついているものの、ロマンティックラブ・イデオロギーの規範は解体していることが確認できた。「D 希望進路およびワーク・ライフ・バランスに対する考え方」は、「子どもを持ちたいという気持ち」にあまり影響を与えていない。

未婚者の「子どもを持ちたいという気持ち」に、特に強い影響を与えているものは、近代家族的家族観、父親や母親への評価である。多くの未婚者は、結婚と生殖を強く結びつけており、家庭を築く上で「子どもを持つ」ということが欠かせないと考えている。また、子どもの世話経験が「子どもを持ちたいという気持ち」に与える影響には、世話をする子どもとの年齢差が関わっており、年齢差が小さいと「子どもを持ちたいという気持ち」には影響を与えない可能性があることを示唆した。